



羅臼町議会だより



しれとこ

令和8年第1回臨時会・第1回定例会	2～5
一般質問	6～10
行政視察	11
小学生によるまちづくり提案会	12～13
令和7年度羅臼町高校生一日議会	14～15

令和8年

第**186**号

4月25日



春松幼稚園



羅臼幼稚園



春松小学校



羅臼小学校

写真提供：地域おこし協力隊 企画振興課 近藤 雨 氏

令和8年 第1回臨時会

1月22日、令和8年第1回臨時会が開催され、令和7年一般会計補正予算、条例制定1件が上程され原案通り可決した。

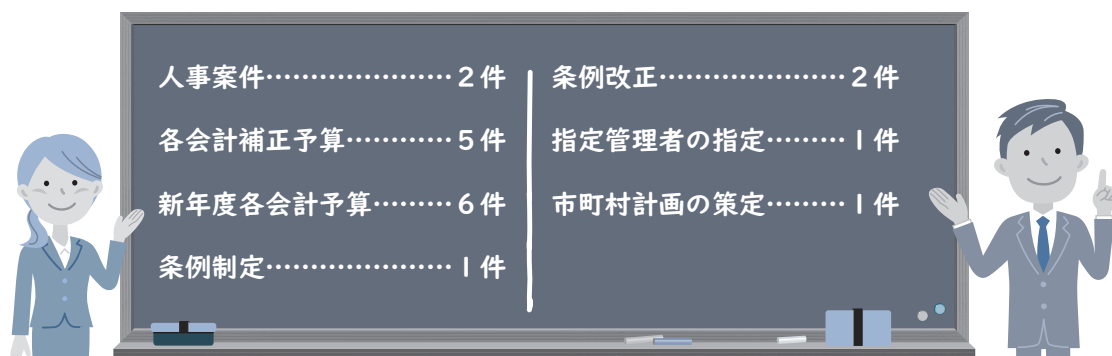
令和7年度一般会計補正予算

補正額 **2億2,301万4千円** 総額 **60億7,893万4千円**

総務費	物価高騰対策に要する経費（羅臼町生活応援商品券配布）	4,519万円
	ふるさと納税に要する経費	1億円
	衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査に要する経費	924万円
民生費	子育て世帯臨時特別給付金に要する経費（児童1人2万円配布）	1,164万1千円
商工費	物価高騰対策に要する経費（法人・個人事業主支援金配布）	5,694万3千円

令和8年 第1回定例会

去る3月4日～12日、令和8年第1回定例会が開催され、令和7年度各会計補正予算及び新年度会計予算等をすべて原案通り可決した。



令和7年度一般会計補正予算

補正額 **△2,810万3千円** 総額 **60億5,083万1千円**

議会費	議会議員に要する経費	△117万8千円
総務費	企業版ふるさと納税基金積立金	100万円
	緑町デジタル中継所補修工事負担金	67万8千円
	町バス運行に係る減収分負担金	1,281万6千円
	地域振興に要する経費	△59万2千円
	知床物産展に要する経費	△41万1千円
	町たばこ税道交付金	△173万4千円
	参議院議員通常選挙に要する経費	△155万4千円
民生費	特別会計繰出金に要する経費	△156万1千円
	その他子育て支援に要する経費	221万9千円
	小規模保育事業に要する経費	316万4千円
衛生費	子宮頸がん予防ワクチン接種委託料	△100万円
	新型コロナウイルスワクチン接種に要する経費	137万3千円
	高齢者新型コロナウイルスワクチン接種に要する経費	△270万円
	環境保全対策等に要する経費	△51万7千円
	地域おこし協力隊に要する経費	△633万円
	特別会計繰出金に要する経費	369万4千円
	乳幼児等医療費助成事業に要する経費	7万8千円

衛生費	合併処理浄化槽普及事業に要する経費	△642万6千円
	妊婦、乳幼児検診に要する経費	36万8千円
	し尿処理に要する経費	△274万4千円
	一般廃棄物最終処分に要する経費	△94万6千円
	根室北部廃棄物処理広域連合に要する経費	△315万4千円
土木費	町道維持補修及び除雪に要する経費	△175万3千円
教育費	その他教育委員会事務局に要する経費	△181万6千円
	教育コンピュータに要する経費	△1,501万2千円
	中学校の管理に要する経費	△354万8千円
	文化財保護調査に要する経費	△51万7千円

令和7年度国民健康保険事業特別会計補正予算

補正額 △340万8千円 総額 9億3,903万円

諸支出金	特定健診審査等負担金償還金	28万6千円
	国民健康保険診療所事業特別会計繰出金	△369万4千円

令和7年度介護保険事業特別会計補正予算

補正額 △370万6千円 総額 5億721万1千円

総務費	介護保険業務に要する経費	46万8千円
地域支援事業費	包括支援センター運営に要する経費	△169万2千円
	認知症総合支援事業に要する経費	△187万2千円
	在宅医療・介護連携推進事業に要する経費	△61万円

令和7年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算

補正額 △99万3千円 総額 9,015万6千円

後期高齢者医療広域連合納付金	後期高齢者医療事業特別会計	△99万3千円
----------------	---------------	---------

人事案件

根室町村等公平委員会委員の選任について

氏名 本間 英敏

住所 標津町南四条西二

丁目一―二十六

生年月日 昭和三十四年七月

十八日

任期 令和八年四月一日

〳令和十二年三月

三十一日

人権擁護委員について

氏名 中陳 美鈴

住所 羅臼町富士見町一

番地四

生年月日 昭和三十七年三月

八日

任期 令和八年七月一日

〳令和十一年六月

三十日

条例の制定

職員の旅費に関する条例

(全部改正)

※旅費支給手続き等の変更

条例の改正

①特別職の職員で非常勤のもの

の報酬及び費用弁償

に関する条例の一部改正

※投票管理者等の報酬額改正

正

②介護保険条例の一部改正

※税制改正の影響により令和

八年度介護保険料段階

が引き上げられた者につ

いて令和七年度の保険料

段階までに減免すること

ができる改正。

③中小企業振興資金融資条

例の一部改正

※貸し付け条件の設備資金

を二十万円の拡大と貸付

金の償還期限の変更

計画策定

羅臼町過疎地域持続的発

展市町村計画の策定

指定管理者

(名称) 羅臼町老人福祉

センター

(指定管理者)

特定非営利活動法人

ゆとりステーション

予算審査特別委員会報告

令和8年度 各会計予算が決定

令和8年度第1回定例会で付託された新年度予算（一般会計・特別会計）について、3月9日～11日までの3日間にわたり予算審査特別委員会を開催し、慎重かつ熱心に審査が行われ、委員全員一致により原案通り可決・決定されました。

予算審査特別委員長 浜岸 昭仁

各会計総額 85億1,924万円 前年度比 13.2%増

（万円以下四捨五入）

令和8年度一般会計予算 64億5,530万円 前年度比16.6%増

（単位：千円・％）

歳 入

科 目	予 算 額	構 成 比
町 税	626,354	9.7
地方消費税交付金	120,000	1.9
国 庫 支 出 金	418,473	6.5
地 方 交 付 税	2,300,000	35.6
道 支 出 金	177,237	2.8
寄 付 金	700,000	10.8
繰 出 金	1,240,361	19.2
町 債	665,300	10.3
そ の 他	207,575	3.2
合 計	6,455,300	100.0

歳 出

科 目	予 算 額	構 成 比
議 会 費	43,992	0.7
総 務 費	2,011,372	31.2
民 生 費	607,006	9.4
衛 生 費	660,989	10.2
農 林 水 産 業 費	118,151	1.8
商 工 費	211,983	3.3
土 木 費	157,655	2.5
教 育 費	973,312	15.1
公 債 費	763,968	11.8
職 員 費	886,872	13.7
予 備 費	20,000	0.3
合 計	6,455,300	100

特別会計（歳入・歳出）

	本年度予算	前年度比		本年度予算	前年度比
国民健康保険事業	931,421	△0.7	後期高齢者医療事業	109,912	27.2
介護保険事業	491,892	0.3	国民健康保険診療所事業	269,883	28.9

水道事業会計（歳入・歳出）

		収 入 予 算	支 出 予 算	資金期末残高
水 道 事 業 会 計	収益的収入・支出	175,043	174,350	191,533
	資本的収入・支出	79,103	86,477	

今年の主な事業と年間予算

①子ども誰でも通園制度支援事業 182千円

子どもの良質な生育環境の整備と、総ての子育て家庭に対する就労要件を問わず預けられる事を支援する（小規模保育事業、幼稚園に通園する子は除く）

②小児インフルエンザ予防接種助成事業 515千円

羅臼町に住所を有する生後6ヶ月～中学3年生を対象に、注射は1回1,000円、鼻スプレーは1回2,000円の自己負担で接種できる。

③学校給食無償化事業 20,318千円

保護者の経済的負担を軽減し、羅臼町内の幼稚園、小学校、中学校に在籍する児童・生徒の保護者に対し、学校給食の原材料相当額を補助する。

④1校1園化の推進 539,870千円

令和8年4月、羅臼町内の小学校と幼稚園が再編され1校1園となりました。

令和9年4月には小学校の1階部分に幼稚園を併設させ、「施設一体型幼小連携校」として、子どもたちの教育環境の充実を図ります。

⑤羅臼高等学校全国公募推進事業 9,755千円

全国から入学希望者を募集することで、町外の生徒目線による羅臼町の魅力発見と、交流人口・関係人口の拡大に取り組むとともに、町内唯一の高校の存続を目指します。

⑥合併浄化槽設置整備事業補助助成 9,299千円

合併浄化槽の普及促進を図るとともに自然環境の配慮、災害に強く住みよい環境の形成を目指すために、設置者に設置費用の一部を助成します。

⑦地域公共交通推進事業 2,449千円

学生や免許証を保有していない町民が公共交通を利用し、町内移動に不便が生じないよう路線バスの継続運行と新たな交通手段の導入を含めた仕組みづくりを検討している。

⑧地域活性化補助金 4,000千円

町民の町づくり及び産業活性化に向けた主体的な取り組みを支援します。

- (1) いきいき地域提案型事業補助金
- (2) 地域産業活性化事業補助金

⑨住宅リフォーム補助金 1,000千円

町内で住宅のリフォームを行う方に、予算の範囲内で費用の一部を補助します。

※補助対象経費が30万円以上の工事として、補助対象経費の10%以内で10万円を限度とする。

⑩省エネ設備等普及促進事業

一般家庭で使用する省エネ設備等の買い換え普及促進を図り、家庭からの二酸化炭素排出量を削減し、ゼロカーボンシティの実現を目指すため、省エネ設備等買い換え費用の一部を補助します。

- (1) 省エネ給湯設備の買い換え助成
- (2) LED照明設備の買い換え助成
- (3) 冷蔵庫または冷凍庫の買い換え助成

「ここが聞きたい」一般質問Q & A

議員は毎年3月・6月・9月・12月に開催される定例会で、町政全般に対し、質問することができます。これを「一般質問」と言います。

今回は5名の議員が質問しました。

本文は、質問した議員本人の責任で執筆（要約）した原稿を掲載しています。

令和8年 第1回定例会 一般質問



浜岸 昭仁 議員

トドによる漁業被害 対策について

質問

駆除の為の要請書を提出している事は承知していますが、現状での駆除枠が年間二十一頭しか与えられていない事が大きな問題です。写真や数字、グラフを用いて被害の実態を示してきましたが、実際には百頭以上の駆除が必要であるにもかかわらず、全く追いついておりません。駆除枠を増やすよう強く要請して頂きたいと思っています。

各種支援策の充実に交渉 を続けていく

湊屋町長

羅臼町においては主にトドにあたりますが、海獣による被害の防止と対策の支援を要請する「海獣被害対策要請」この要請活動以外

に、根室地方総合開発期成会要望においてもトドによる漁業被害減少に向けた捕獲頭数の見直しに関する要望活動を毎年実施しております。

駆除可能頭数につきましては、令和六年に科学的根拠に基づき絶滅危惧種とならない頭数、十年後に六割を下回らない駆除数と制限され、根室海峡で三十一頭、その内羅臼は二十一頭と設定されたので、令和十二年まで変更は無いものと考えています。絶滅危惧種とならない駆除頭数の見直し、操業海域からの追い払い、トド被害に対する各種支援策に交渉を続けていきます。

再質問

駆除枠見直しが五年ごとということですが、令和十二年は承知していますが、年々被害が増加し、今年は過去最高の二十一頭の駆除もあり二月中で駆除し尽くしました。十二年まで待つのではなく、来年度に向けて交渉をしていくべきです。

湊屋町長

羅臼側の海域での生息調査は把握できていますが、中間ラインから国後島側は把握できておらず、日本は有害駆除をしたくてもロシアでは保護しているのので、国際的観点からも難しい問題です。

再々質問

駆除数を増やせないのなら、漁獲減少と漁具被害に対する補償金を来年から出して貰えるように、国や北海道に対し強く要請してください。

湊屋町長

補償金の問題は国が判断することですが、国会議員の皆様にも浸透していることなので、国や外務省に対しても強く要請していきます。

観光船乗り場近 のトイレについて

質問

アイヌ施設推進地域計画に基づき、海業推進と共に重要課題として検討してい

くと言及されていますが、どのような理由で方針が変わったのか伺います。

アイヌ施設推進交付金を活用し令和九年から十一年にかけて進める

湊屋町長

アイヌ施設推進地域計画に基づき、この計画は予定通り現在進行中となっています。現時点では令和八年度中に関係各所と合意形成が図られ次第、アイヌ施設推進交付金を活用し、基本設計、実施設計、施行と進めていく予定となっております。

私の行政執行方針で、海業の推進によるトイレ設置問題を検討すると述べているのは、羅臼町が海業の推進に取り組む地区に認定されておりますが、補助金が発生するわけではなく、漁港付近に各種事業の実施にあたり、各方面からの理解が得られやすくなること、海業一番のメリットです。



山下 竜哉 議員

羅臼町における共同墓地について

質問

自治体により管理運営される「合葬墓」「共同墓地」の需要が高まっていると認識しており、当町においても無縁墓の増加や遺骨の引き取り手が無い事例、生活困窮世帯の埋葬問題等、予想される課題に対する町長の見解を伺います。

早急に解決すべき問題とは考えておりません

湊屋町長

少子高齢化等により、共同墓地の必要性は認識しておりますが、現時点において羅臼町では供養が行われており、緊急性は高くないと考えております。今後、納骨先不足や継承者不在が顕著化した場合には検討課題とし、町の社会情勢や町

民の要望などを見て総合的に判断してまいります。

再質問

共同墓地や合葬墓については、少子高齢化や人口減少によりその需要は確実に高まってきております。

後継者不在や無宗教などで納骨に困る方も増えつつあり、それを町外に求めれば地域との縁も薄れてしまいます。将来の無縁化リスクを見据え、町としていつ・どの段階で対応するのか、その基準と道筋を示す必要があると考えますが、町長に伺います。

湊屋町長

現時点では緊急性が無く、その設置については考えておりませんが、今後困る方が出てきた場合には、適宜相談に応じてまいります。また、町民からの要望や宗教面等々を踏まえ総合的に判断する必要があるもので御座います。

再々質問

誤解のないように申しますと、お墓離れや墓じまい

を推奨するものではなく、現状把握と課題整理を行い、調査研究を進めるべきだと思います。

湊屋町長

羅臼町には無縁仏の施設があり、町が管理をしております。そこに埋葬される場合には規則があり、その規則に合致された方の埋葬先として十分なスペースを確保しております。

清掃センターと火葬場の現状と対策について

質問

清掃センターと火葬場の両施設は約四か月間にわたって断水ですが、その理由と対策を伺います。

ご不便でしょうがご理解を

湊屋町長

給水（水道水ではない）地点の現場が積雪により行けない状態のため対応ができていませんが、雪解け後直ちに補修を行います。

再質問

現在、作業員の方々は用意された、或いは持参したペットボトルでトイレや手洗いに使い、この状況が数か月に及んでいます。

仮にこれが役場庁舎であれば到底受け入れられない状況なのではないでしょうか？少なくとも飲料水の確保、例としてウォーターサーバーの設置や手洗い環境の整備は早急に対応することが可能だと思えますが？

湊屋町長

相当なご不便をおかけしている事実があることは認識しております。ウォーターサーバー設置の提案については検討の余地があります。今後は現場で働く人達と、町の担当とで協議をしながら整備を進めてまいります。

清掃センターの老朽化問題

質問

老朽化が顕著な清掃センターですが、以前「解体除去、その在り方を検討する

（中略）」と町長の答弁がありました。そこで働く人達の安全を確保するために、その後の検討内容について伺います。

現在、保管施設の移転場所を検討中

湊屋町長

老朽化が著しい現在地より、一日でも早く移転を行い、そこで働く人達の安全の確保に努めたい。



米井 宏喜
議員

乳幼児期の教育的位置付け

質問

発達支援センターや子育て支援センターに幼稚園教諭を配置する取り組みは、乳幼児期の子どもの育ちを支える重要な施策であると受け止めている。特に、零歳から三歳は人としての土台が形成される大切な時期であり、家庭での関わりや周囲の環境がその後の成長に影響すると考える。

今回の幼稚園教諭配置は、単なる相談体制の強化ではなく、乳幼児期を教育的にも重要な時期と位置付けた取り組みなのか、その狙いについて伺う。

基礎 乳幼児期は人格形成の基

石崎教育長

乳幼児期は人格形成の基礎となる重要な時期である

と認識している。本町では子どもの健やかな成長と家庭での子育てを支えるため、関係機関が連携した取り組みを進めてきた。

子どもの自律や親育ちを支援するチーム「結」^{むすび}を中心に、家庭教育に関する情報提供や相談対応など保護者への支援を行っている。

子育て支援センターに幼稚園教諭を配置することで、幼児教育の専門性を生かした相談体制の充実につながると考えている。

再質問

乳幼児期は人としての基礎を育む重要な時期であり、その経験や環境がその後の学びや生活にも影響すると考える。

乳幼児期から就学前までを含めた一貫した育ちの視点を、町の教育ビジョンの中にどのように位置付けていくのか伺う。

石崎教育長

乳幼児期の育ちの重要性は本町においても認識している。

第八期羅臼町総合計画では家庭教育支援の充実を掲げ、子どもと保護者の育ちを支える取り組みを進めている。

また、教育大綱や社会教育中期計画でも幼児期の教育や子育て支援を重要な分野として位置付けている。

今後関係機関の連携を強化し、乳幼児期から子どもの健やかな成長を支える取り組みを進めていきたい。

GIGAスクール構想と生活習慣

質問

本町ではGIGAスクール構想の推進により、児童生徒一人一台端末を活用した学習環境の整備が進められている。一方で、家庭での端末利用による生活習慣の乱れなども課題として示されている。

家庭での端末利用が子どもの生活習慣や健康状態、学力にどのような影響を与えていると分析しているのか伺う。

端末の長時間利用に課題

石崎教育長

家庭での端末利用は学校端末だけでなく、スマートフォンやゲーム機など様々なメディアが関係している。令和六年度の児童生徒質問調査では、平日に三時間以上利用している児童生徒は小中学校ともに約三割となっている。

メディアの長時間利用は生活習慣の乱れや学習時間の減少につながる傾向があり、家庭での利用のあり方が生活習慣や学習にも影響していると考えている。

再質問

執行方針では「小学生スィッチオフ20」「中学生スィッチオフ22」により、生活習慣の確立を目指すとしている。

GIGAスクール構想による端末活用と、この取り組みはどのように整理されているのか伺う。

石崎教育長

この取り組みは、町内の

教員で構成する幼小中高一貫教育推進協議会が作成した学力向上「羅臼プラン」に基づくものである。

家庭でのスマートフォンやゲーム機などの利用について一定のルールづくりを進め、望ましい生活習慣と学習習慣の確立を図ることを目的としている。

再々質問

家庭での端末利用については、時間制限だけでなく、適切な活用と生活習慣の両立を図る支援も重要であると考えるが、具体的な取り組みを伺う。

石崎教育長

家庭利用ガイドラインの配布や資料を活用し、メディアとの付き合い方について保護者への周知を図っている。

また、講演会などを通じて、家庭でのルールづくりについて啓発を行っている。

今後学校と家庭が連携し、端末の活用と生活習慣の両立を図る取り組みを進めていきたい。



加藤 勉
議員

道の駅周辺の整備について

質問

市街地の活性化に向け、「未来創造会議」で議論された内容を踏まえ、公募型プロポーザルで四社による共同事業者を選定し、道の駅周辺の再開発に向けた取り組みを推進するとしていますが、その内容について伺います。

道の駅周辺の再開発について官民連携による事業を進め、早期にイメージ図を提案していきます

湊屋町長

令和五年度までに、道の駅周辺へのホテル・コミュニティカフェ・アウトドアショップの設置等による本町通りの活性化や、番屋の観光活用などのまちづくり会社の立ち上げ等について

議論されてきました。

令和六年度には、パートナー事業者を選定して取り組みを具体化させることで協議を進めています。令和七年には道の駅周辺の再開発、二次交通の充実や地域資源の有効利用について提言をいただいています。

道の駅周辺の再開発を始めたとした観光地域づくり事業について、官民連携による事業を進め、わかりやすくイメージしたものを早期に提案させていただきます。

再質問

本町地区は民有地も多く再開発に支障が生じないのか。

湊屋町長

この地区は羅臼町の歴史が残る地域であり、前町長時代に土地所有者との協議も進められ再開発に向けた検討もされていたと聞いています。

再々質問

再開発には相当な予算も生じると考えますが、助成制度はあるのか伺います。

湊屋町長

再開発に取り組む「まちづくり会社」がその受け皿となることも考えられます。

羅臼高校の全国公募について

質問

令和九年度から羅臼高校生徒の全国公募を目指していますが、応募してきた生徒のアパート等の生活環境の確保が必要と考えますが、現在考えられる整備内容について伺います。

高校生の寮として利用可能な施設については調整中です

石崎教育長

羅臼高校の全国公募については、令和九年度から新入学生受け入れに向け「学校説明会」の参加や「おためし地域留学」の開催など、全国の中学生や保護者に知床・羅臼と羅臼高校の魅力のPRに取り組んでいます。生徒たちを受け入れる下宿先を募集していましたが、正式に決定しているところ

はありません。

現在、高校生の寮として利用可能な施設について、既存物件の有効活用を軸に調整作業を進めています。

新年度早々には物件を特定したうえで補正予算案を上程し、令和九年四月に間に合うよう受入体制を整えてまいりたいと思います。

再質問

学校給食について提供す

る考えは無いのか伺います。

石崎教育長

高校生の一日議会でも質問がありました。高校の給食は町独自の判断で実施可能ではありますが、高校の通学路は冬期間の凍結により給食配送車の運行が厳しいと判断していますが、別な方法があれば検討していきたい。





小川 雅勝 議員

クマ被害対策について

質問

執行方針の中でクマ被害対策については、関係関係会議で決定された「クマ被害対策パッケージを有効活用し安心・安全の確保」とされているが、今までと何が違い、安全・安心がどのように確保されるのか伺います。

多岐にわたる政策が提示されています

多岐にわたる政策が提示されています

湊屋町長

昨年十一月に「クマ被害対策等に関する関係関係会議」で発出された「クマ被害対策パッケージ」では、捕獲強化のための捕獲単価増額や人材育成、電気柵の維持管理や備品整備の他、

多岐にわたる政策が提示されており、詳細については今後示される予定です

あり、国・道の支援の下、「知床財団」、「猟友会」ほか関係機関と連携し、安心安全の確保に向けて、事業の強化を図ってまいります。それと同時に、最後に自分の命や財産を守るのは自分自身であり、クマの誘因物を放置しないなど野生動物との緩衝地帯を設けることなど、対策は各企業・各町内会・そしてご自身で講じていただきたい。

再質問

安全対策をもっと強化しなければならぬと思うが、このパッケージで交付金はないのか。

飯島産業創成課長

交付金があります。現在要望を上げているところですが、明確な回答はできません。

再々質問

中学校では、保護者が生徒の送迎をしなければならぬ期間があったが、保護者に相当な負担が掛かるし、町民も不安を感じたと思います。令和八年度予算を見

ると、クマ対策は三箇所のキャンプ場にゴミ箱を設置する計画しかないが、このパッケージを活用し安全対策の更なる強化、特に学校周辺の安全対策が必要だと思っています。

飯島産業創成課長

補助を受けられたら、更に対策を強化する事ができるので、安心・安全を担保できるよう努めます。

アイヌ施策推進計画について

質問

現在の進捗状況、どのような作業を行なっているのか説明していただきたい。

また、昨年の説明では港に小さな施設を建てると言う構想も聞いたが、その後計画はどうなったのか伺います。

令和七年度～令和十一年度の五カ年計画

湊屋町長

令和七年度については大きく二つの事業に取り組んでおり、文化振興事業につ

いては、地形測量・空撮及び3Dモデルの作成等によるチャシ跡の記録保存や、文献の収集・分析とアイヌの伝統等に関するガイドブック作成の検討等を実施しています。地域・産業振興事業については、水産物のアイヌブランド化に向けた調査検討や、水産資源の維持増大を図るための海洋観測ブイの導入を実施していま

す。また、令和八年度についても、文化振興や水産振興に加えて新たに観光振興にもアイヌ政策推進交付金を活用するため、交付金事業計画等を作成し、国との協議を実施してまいります。

二点目の「港に小さな施設を建てる構想」については、ですが、当町のアイヌ施策推進地域計画については、令和七年度～令和十一年度の五カ年計画となっております。

その中の一事業として、令和九年度～令和十一年度にかけて、羅臼漁港付近にアイヌ文化やアイヌの人々と

海棲生物とのつながりを紹介する拠点の整備を盛り込んでおります。

令和九年度から予定通り事業に着手できるよう、令和八年度については、関係機関等との合意形成を進めていきたいと考えています。

再質問

この計画は町民にあまり知られていないのではと思いい、もう少し町民に知っていただきたいと思いい質問しました。

今年度から始まるラッピングバスについてですが、新たに観光施設を回るものと考えて良いのか。

湊屋町長

これから始まる二次交通や既存の物、新たな物も含めて検討して行きます。バスにラッピングをする事で、アイヌへの理解や文化を伝えていきたいと考えています。

小川議員その他の質問

・水道事業について
・羅臼高校の全国公募について

令和八年度道内行政視察

視察先：栗山町議会（一月十五日）
視察内容：「議員の学校」の実践と課題

栗山町議会では、無投票選挙が二期続いたことが過去にありました。これに危機感を覚えた議会は、議員のなり手不足を解消すべく「議員の学校」を開校しました。

開校までの流れは次の通りです。

調査特別委員会設置

全国に先駆けて「議会基本条例」を制定した栗山町議会としては由々しき事態

なぜ、議員のなり手がいない？

調査

栗山町議会議員の報酬と定数に関する調査特別委員会設置（令和元年6月）

■小委員会2つを設置

- ・報酬と定数を考える小委員会
- ・なり手問題を考える小委員会

開校の発端

平成27年・31年、2度にわたり、町議会議員選挙なし

議員選挙時の議員定数・投票・人口の推移

	令和5年	平成31年	平成27年	平成23年
議員定数	11人	12人	12人	13人
立候補者数	14人	12人	12人	15人
投票率	63.66%	無投票	無投票	71.77%
最高得票数	768.163票	—	—	1,038票
最低得票数	168票	—	—	409票
人口	11,006人	11,762人	12,502人	13,326人
議員1人当たりの人口	1,000.5人	980.2人	1,041.8人	1,025.1人

議員の学校カリキュラム

- 1時間目
- 議会のキホン～議会と議員の役割について～
①議院内閣制と二元代表制（国会と地方議会の違い）
②町村議会と議員の役割・権限について
③議会運営の実態
④一般質問と反問権
⑤委員会制度
⑥政務活動費と議員の資質向上
⑦豊かな議会づくり～栗山町議会の議会改革の取り組みと議会基本条例について
- 2時間目
- 議員に聞いてみよう～議員活動の実態～
①選挙制度の概要 ②選挙費用等
③議員活動の実績
■議員からの説明
・議員になった動機、仕事の両立等

- 3時間目
- 傍聴してみよう～議会運営委員会～
・議会運営の流れ、委員会の役割
・審議内容等
・質疑応答
- 4時間目
- 傍聴してみよう～一般質問編～
・一般質問の定義、目的、実践手法
・質疑応答
- 5時間目
- 傍聴してみよう～予算審査特別委員会～
・特別委員会の運営、役割、審議内容等
・質疑応答

議員の学校 開校！

議員の学校の目的

議員の後継者育成として議会や議員に関心や志のある町民等を発掘、育成し、もって、議員のなり手不足の課題の解決に向けた一助として取り組むもの。
学校運営を模倣した体制に！

議長→校長
副議長→教頭
議員→先生
庶長→担任

令和五年には、この中から立候補した四名の方全員が当選されました。では、何故「議員の学校」という名称にしたのか言いますと、その「言葉の響き」から誰もがイメージ出来る先生（議員）と生徒（議員のなり手）の関係、そこにはお互い大変な努力で成り立つものでありました。

羅臼町議会も、良い所を取り入れて今後に生かすよう検討を重ねてまいります。

行政報告

〈特旨叙位〉

令和七年十二月三日にご逝去されました、元羅臼町議会議員 山下 崧^{たかし}氏が

「正六位」に叙されました。

山下氏におかれましては、昭和五十年五月から平成二十三年四月まで九期三十六年の永きにわたり町議会議員として在職し、平成十二年二月から産業常任委員長として、平成十三年五月から平成十五年四月まで総務文教常任委員長として、産業振興や国道の安定した通行の確保にご尽力されるなど、高邁な政治信念を持つて羅臼町の振興発展に寄与した功績が認められ、平成二十五年十一月、秋の叙勲にて旭日双光章を受章しており、この度特旨叙位となったものであります。

一日未明から午前中にかけて強風となり、旧知円別小中学校の屋根が一部剥離する被害が発生しました。

気象庁の風速データでは、一日午前四時二十一分に最大瞬間風速二十八・九mを記録しておりますが、羅臼町が独自に知円別漁港に設置しております風速計では、午前三時五十分以北北東の風四十四・五mの最大瞬間風速を記録しております。

この被害を受け、町有物件の確認をしたところ、三月三日現在、他に被災した町有物件は確認されませんでした。

なお、町内の民間の建物で窓ガラスと壁が破損する被害が二件確認されました。

被災した町有物件は、被害拡大防止を図るためにも早急に補修が必要であるため、現在町内の専門業者に見積もり依頼をしておおり、確認ができ次第補修してまいります。

〈強風被害について〉

国後島沖の低気圧が発達した影響により、去る三月

小学生がまちの未来を提案

「まちづくり提案会」で羅臼への思いを発表

二月二十四日、羅臼小学校多目的ホールで「小学生によるまちづくり提案会」が開かれ、春松小学校と羅臼小学校の六年生が、学習

とで、町民の暮らしやすさ向上や町外から人を呼び込むことにつながるのではな

の成果をもとに羅臼町の未来について提案を行いました。子どもたちは、町の課題を自分たちで調べ、より良いまちにするためのアイデアを発表しました。

春松小学校

身近な課題から、暮らしやすい町を考える

春松小学校の児童は、「建物」「環境問題」「遊ぶところ」「クマ」の四つの視点から提案しました。

建物チームは、町内にある空き地の活用に着目し、レストランや公共施設・公園・温泉などを整備するこ

環境問題チームは、海や道路へのポイ捨て、不法投

棄を課題として取り上げ、ごみ拾いでポイントが貯まる仕組みや、分別できるごみ箱の設置、観光客専用ごみ袋の販売場所をわかりやすくすることなどを提案しました。「きれいな羅臼町を守るために、一人ひとりが取り組むことが大切」と訴えました。

遊ぶところチームは、体を動かして遊べる場所が限

られていることに注目し、運動公園への遊具の増設や公園の整備を提案しました。運動不足の解消や、遊びを通じて体を動かすきっかけ

づくりにつながる発表となりました。

クマチームは、クマが山里に出てくる問題について、山に食べ物が少ないことや、ごみの管理が不十分なこと

が原因の一つではないかと考察しました。人もクマも守るため、クマの食べ物を増やす工夫や、荒らされにくいごみ箱の設置、ポイ捨て防止の周知が必要と提案しました。

質問タイムでは、遊ぶところチームの提案に対し、

「子どもだけでなく、送迎する保護者や高齢者など、町民全体が使いやすい視点もあるとさらに良い」との助言があり、より広い視点でまちづくりを考える大切さも共有されました。



羅臼小学校 羅臼の魅力を生かし、 注目される町へ

羅臼小学校の児童は、「持続可能な羅臼を目指して～みんなから注目されるために～」をテーマに、「水産業」「文化と魅力の活性化」「暮らし」の三分野から発表しました。

水産業チームは、羅臼町の海産物は有名でも「見る場所」が少ないことに着目し、道の駅にミニ水族館を設置する案を提案しました。羅臼で獲れる魚を展示し、魚の説明をQRコードで見られるようにすることで、観光客や町民にもっと魚の魅力を知ってもらえると発表しました。

文化と魅力の活性化チームは、昆布体験ができる施設や、知床いぶき樽の演奏を動画とともに紹介する展示、誰でも楽しめるアスレチックの整備などを提案し

ました。羅臼の文化や歴史、自然の魅力を「見て、体験して、楽しめる」形にすることで、若い世代や観光客にも関心を持ってもらえるのではないかと考えました。

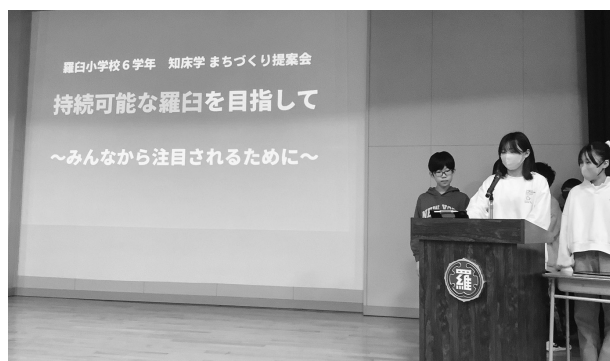
暮らしチームは、人口減少という課題を抱えながらも、自然や観光資源といった羅臼の良さを生かすことが大切と発表しました。道の駅で小学生が考えたオリジナル商品や図鑑、知床未来小学校にちなんだグッズなどを販売し、町の魅力を発信するアイデアを提案しました。

発表後には、いぶき樽の演奏体験や、水族館の水槽の材質、展示する魚の種類などについて質問があり、児童たちが自分の考えをしっかり伝える姿が見られました。また、「いぶき樽の動画ができたなら郷土資料館で流したい」との声もあり、発表内容への期待が寄せられました。

小学生の発想が、まちづくりのヒントに

最後に参加者からは、「大人では気づけない柔軟な発想がたくさんあった」「運動公園やミニ水族館の提案が特に印象的だった」などの感想が寄せられました。

子どもたちが自ら調べ、考え、言葉にして発表した今回の提案会は、羅臼のこれからを考えるうえで大きなヒントになる時間となりました。



高校生が 町政に質問 〜羅臼高校生一日議会 でまちの未来を考える〜



羅臼高校生一日議会が開催され、生徒たちが町の課題や将来について、町長・教育長に質問しました。

道路や除雪・観光・環境・教育・交通など、身近なテーマについて率直な意見や提案が出され、町側から現状や今後の考え方が示されました。

ここでは、各グループの主な質問と答弁の内容を紹介します。

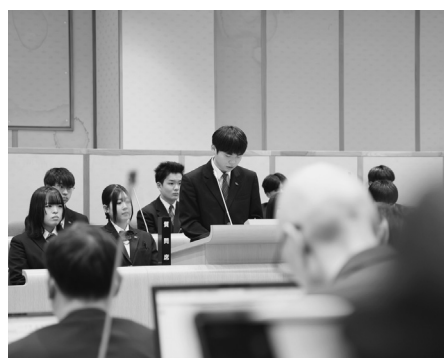
A班



A班は、道路整備や新たな施設、冬季イベントの活性化について質問しました。

知床羅臼野遊びフィールドまでの道路整備については、安全性や利便性向上の必要性は認識しているものの、該当区間はN・T・T所有・管理の道路であり町道ではないため、町が直接整備することは難しいとの答弁がありました。今後は、利用状況や安全面を検証して、関係者と協議しながら改善の可能性を検討していくとしました。

新しい施設の設置については、グランピングのよう



な施設整備が提案されました。町からは、アウトドア需要の高まりを踏まえ、既存施設を活用しながら新たな魅力を加える考え方には意義があるとし、今後は既存施設の有効活用や民間活力の導入も視野に入れ検討していくとしました。

冬季イベントの活性化については、「オジロまつり」の担い手不足が課題として挙げられました。町からは、高校生が企画や運営、ボランティアとして関わることで祭りの活性化や次世代への継承にもつながるとして、商工会青年部とも話をしていきたいとの考えが示されました。

B班

B班は、通学路の安全対策や学校行事を活用した町おこし・観光客向けごみ袋の周知について質問しました。

ツルハから礼文町会館へつながる道の街灯設置については、該当道路が私有地であるため、町として設置することはできないとの説明がありました。一方で、夜道の危険性については認識しており、安全なルートの利用などで対応してほしいとの考えが示されました。

「知床縦断遠足」を活用した町おこしについては、町の自然や魅力を伝える取り組みとして期待が寄せられました。町側はヒゲマ出没など安全面の課題が大きく、現状での実施は難しいと答弁しました。そのうえで、安全を確保できる具体的な提案があれば検討の余地はあるとしました。

観光客専用ごみ袋のPRについては、町内のキャンプ場受付や商店など二十一

C班



店舗で販売していることが説明され、今後も必要な情報発信を続けていく考えが示されました。

C班は、除雪やごみ問題・若者が利用できる施設整備について質問しました。

栄町の除雪については、国道の歩道や町道の除雪の現状が説明されました。町内では民間所有のホイールローダーなどの協力もあり、比較的早い除雪につながっている一方、雪を歩道に出してしまう事例もあり、町としても広報などで注意喚起をしていくとしました。

町内のごみ対策については、町内会や団体、事業所による清掃活動への協力や支援を続けていること、またポイ捨てが環境犯罪であることの周知に努めていることが示されました。町民による自主的な清掃活動についても、今後も支援を続けたいとの考えが述べられました。

既存の建物を活用した学生が利用できる施設については、現在、空き施設となる春松小学校や春松幼稚園の活用を検討しており、若者も含めた多世代が交流できる場にしたという考えが教育長から示されました。また、コンサートホール



D班

D班は、通学環境や移住支援・ごみ問題・観光発信について質問しました。

学生向けスクールバスについては、現在の通学手段として既存の路線バスなどが確保されていることから、現時点で新たな小中高一貫のバス導入は考えていないとの説明がありました。

補助金については、町外からの移住や子育て世帯への支援制度について質問があり、町からは、移住促進と定住を目的とした制度であり、一定期間以上町に住む意思があることを条件としていると説明しました。

また、高校生の視点も今後の施策検討の参考にしたいとしました。

町内のごみ問題については、看板や監視カメラの設置、不法投棄への対応などについて質問があり、町では場所に応じて看板設置や巡回を行い、警察や海上保安署とも連携して対応していると説明しました。

E班

町名モニタメントの設置については、観光PR効果は期待できるものの、設置場所や景観、維持管理費用などの課題もあり、現時点で具体的な設置計画はないとしつつ、若い世代の発想として受け止めていると答弁しました。

E班は、観光振興や高齢者支援・環境・学びへの支援について質問しました。

観光振興については、顔出しパネルやキャラクターなどを活用したPRが提案されました。町からは、来訪者が写真を撮影し、SNSで発信することによる観

光PR効果は大きいとの認識が示され、高校生の柔軟な発想も生かしていきたいとの考えが述べられました。

高齢者の買い物支援については、「らうすのお助け便利帳」や地域包括支援センターによる相談対応、介護保険サービスの活用など、現在の支援内容が説明されました。また、買い物時の

荷物を運ぶサービスについては、すぐに実施することは難しいものの、「コミュニティバス「やさしい号」」などの実証運行を通じて検証を進めていくとしました。

環境については、積もった雪の活用などの提案もありましたが、町からは現時点で具体的な事例や検討はないとの答弁がありました。

漢字検定に合格した際の支援については、教育長から、現在も検定料の全額助成を行っていることが説明され、そのうえで合格後の体験的な学習機会については、学校とも連携しながら考えていきたいとしました。



何日もかけて準備を進め、自分たちの言葉で町への思いを届けてくれた高校生の皆さん、そして支えてくださった高校関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。その姿に、羅臼の未来への大きな希望を感じました。

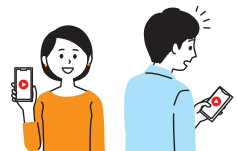
議会の動き 令和8年

月 日	行 事	出席者
2月7日	2026「北方領土の日」根室管内住民大会（根室市）	議長
9日	議員と高校生の懇談会	事務局対応
16日	令和7年度羅臼高校生一日議会 全員協議会	議員10名 議員10名
24日	小学生によるまちづくり提案会（羅臼小・春松小6年生）	議員5名
26日	議会運営委員会	議員5名
28日	自衛隊入隊予定者激励会（中標津町）	議長
3月4日	令和8年第1回定例会（1日目）	議員10名
5日	令和8年第1回定例会（2日目）	議員10名
6日	経済文教常任委員会 総務民生常任委員会	議員5名 議員6名
9日	予算審査特別委員会（1日目）	議員10名
10日	予算審査特別委員会（2日目）	議員10名
11日	予算審査特別委員会（3日目）	議員10名
12日	令和8年第1回定例会（3日目） 議会運営委員会 行政と議会議員との懇談会	議員10名 議員6名 議員10名
19日	広聴広報常任委員会	議員5名
4月17日	根室町村議会議長会定期総会（中標津町）	議長・副議長



YouTube 配信中!

動画でサクッと
議会チェック!



3月4日
定例会1日目



3月5日
定例会2日目



3月12日
定例会3日目

お問い合わせ先：羅臼町議会事務局（0153-87-2180）

編集を終えて



春の雪解けが進み、町にも少しずつ新しい季節の気配が広がってきました。今号では、高校生一日議会や小学生によるまちづくり提案会といった、次代を担う子どもたちのまっすぐな声を紹介しています。大人では気づけない視点に、私たちも学ぶことが多くありました。

また、予算審査特別委員会では、限られた財源をどう未来につなげるか、議会として真剣な議論を重ねました。

町の歩みは、日々の小さな積み重ねから生まれます。これからも皆さんとともに、より良い羅臼の姿を描いていければと思います。

山下 竜哉

広聴広報常任委員会

委員長 加藤 勉 | 副委員長 米井 広喜 | 委員 田中 良・浜岸 昭仁・小川 雅勝・山下 竜哉